

取組分野	令和 5 年度		評価	
	取組目標	自己評価		
重点取組項目	「総合的な探究の時間」の取組の推進	身近なところから世界まで目を向けたグローバルな視点から社会の課題を見出し、課題解決に向けて自ら取組もうとする姿勢を育成する。 探究の基力・考え方を軸とする。探究的・総合的な学習を行うことを通じて、次に及ぶ能力・態度を身に付けられる機会を提供する。 ① 学び方やその考え方を身に付け、探究力や論理的思考力を養う。 ② グローバル社会を生き抜くことと関連し、自己の在り方や生き方、将来の進路について考える。	B	
	魅力ある高校教育の推進	横浜国立大学との高大連携を推進し、各学問分野の大学教員による「高大連携特別講座」、大学生とともに学ぶ「高大連携講座」、市大インストラクターによる「ブラクティカルイングリッシュ」について評価を行い、生徒の満足度80%を目標とする。	B	
	グローバル教育・サイエンス教育の推進	姉妹校の生徒及び教職員との定期的な相互交流を実施する。また、進路指導員を活用し国際交流活動を実施させる。 市大インストラクターによる「ブラクティカルイングリッシュ」を通じて、英語で発信する力を伸ばす。	B	
人材育成の取組目標	○積極的な公開授業に取り組み、授業力向上を目指す。 ○教職員が進路研修会を定期的に行い、進路指導力の向上に努める。 ○双核教育研修、不祥事防止研修に取り組み、人権感覚の向上と不祥事の防止に努める。	職員が積極的に公開授業をおこない、生徒の思考・判断・表現力を育み、生徒自らが課題を見出し解決に向けた取り組みができるよう支援する授業を目指して、教職員一人ひとりが授業力の向上を目指している。進路指導部を中心に教職員研修をおこない、進路指導重点校として教職員の指導力向上に努めている。また、人権研修や不祥事防止研修を通して、教職員の人権感覚の向上にも努めている。	B	
中期学校経営方針における13の取組分野	教育目標等の設定・実施	○本校の学校教育目標及び中期学校経営方針について理解を深め、目標の達成に向けて会議等で意見交換の活性化を図ります。	職員会議でスクールミッションやグランドデザインを確認し、最終的な業務の目的はそこにあることを、全職員で確認している。組織運営については改革案を提示し、企画調整委員会や職員会議で意見交換をおこないながら、来年度に向けて組織改編を実現した。	B
	組織運営(働き方改革)教職員研修	○次世代を担う教職員がリーダーとしての役割を担って、経験豊富な教職員の指導や助言を積極的に受ける環境を整え、学校全体で人材育成の意識を高めていく。 ○授業評価の実施および研究授業を通じ、授業研修の活性化を図ります。 ○教職員の健康増進や生活習慣病の予防を推進し、業務内容を改善することで教職員の負担軽減にも取り組んでいます。	職員会議や分掌会、各委員会、校内掲示版のメッセージを通して、教職員それぞれが、互いを尊重し、認め合いながら職務を遂行できる風土形成に取り組んでいる。また、各分掌や委員会の主任を中心に組織的な学校運営ができるよう、教職員に働きかけを行っている。	B
	教育課程	○本校の使命を達成するために特色ある教育課程を充実させていきます。 ○新教育課程学習指導要領を着実に実施し、生徒の資質・能力の向上に向けて、内容をより深く理解するように努め、職員全体での取り組みを推進します。	本校の使命を達成するために各教科が工夫を凝らし、特色ある教育課程を意図し、教育課程を充実させることができた。新教育課程学習指導要領を着実に実施することができた。生徒の資質・能力の向上に向け、職員全体で各学期ごとに観点別評価についての振り返りを行い、理解を深めた。	B
	教科指導	○学習・復習を前提とした学習活動の定着のため、入学当初のオリエンテーションの充実を図ります。 ○ICT機器とその環境を用いて、積極的な活用と技術の向上に努めます。 ○基礎学力の定着のみならず、高度な資質・能力の育成のため各教科指導の充実を図ります。	オリエンテーションでは、学年に応じた学習・復習を前提とした学習活動について講話を行い、指導の徹底を図った。ロイノートやClassroomを積極的に活用していき、自発的に研修会を行う等、各々が技術の向上に励んだ。各教科においては指導法の充実を図るため、研修に取り組み、指導力の向上に努めた。	B
	特別活動部活動	○学年間による卒業までを見越した指導計画の作成により、ホームルーム活動の充実を図ります。 ○特別活動及び部活動において自主自立の精神および責任感の育成を図ります。	○各学年の計画をもとに充実したホームルーム活動を行い、学校行事や学年行事につなげることができた。 ○主体的な活動を促すことを重視して指導に当たり、責任感を持つて活動に取り組む生徒の姿が数多く見られた。生徒による評価の項目3の回答の肯定的評価は80%であり、今後この数字が100%に近づけるよう努力を継続したい。	B
	生徒指導教育相談(特別支援)	○基本的な生活習慣を確立し、人権尊重の精神・社会的マナーおよび公共意識の高い生徒を育成します。 ○生徒指導の時間確保や定期的な生徒支援委員会の開催、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携により生徒の様々な課題に組織的な対応を図ります。	服装指導やネットモラルに関する指導、基本的な生活習慣に関する指導など、分掌会を通して学校として一定の基準で指導するよう努めた。また、生徒指導を組織として共有することに努め、SGやSSWとの連携・指導に当たった。生徒による評価の項目4の回答の肯定的評価が93%であった。今後も生徒が相談しやすい体制作りにも、この数字を100%に近づけたい。	B
	キャリア教育進路指導	○卒業後の進路を見据え、進路指導重点校として高い進路希望を実現させるため、計画的で組織的な学習指導に取り組む。 ○スタディーサポートの計画的な実施と結果の活用により進路希望の実現を図ります。	○3年間の指導計画を再編し、進路指導部内、及び全教職員での共有を取り入れた。また、職員向けの研修を開催したり、生徒向けのガイダンスや進路集会を行い、進路指導を充実させた。 ○1、2年とも春と夏明けの2回実施になり、継続的な指導に役立てることができた。また、実施後に教員研修を行い、データの活用に向けたものになった。	B
	保健指導環境美化	○感染症予防について理解し、新たな生活様式を習慣化させるなど健康・安全に高い意識を持たせす。 ○資源ゴミの分別など美化活動の意識を、教育活動全体の中で育成します。	保健指導では、コロナウイルス感染症やインフルエンザの予防や拡大防止のための啓発を行った。生徒による学校評価で肯定的意見は86%であった。来年度も社会の状況、状況に応じて判断し、対応していく。 「積極的に取り組んでいる」と考えている生徒が多い。継続してSDGSの意識を高く持って行動できるよう、学校全体で取り組んでいきたい。	B
	学校総務施設・設備情報の管理	○会計報告を保護者の目に触れやすくするよう、WEBページの活用について引き続き周知を図ります。 ○商品購入、施設改修・修繕を計画的に進め、教育環境の整備に努めます。 ○個人情報管理を徹底し、組織的な取組を継続します。 ○情報管理について保護者や生徒に適切な案内を行います。	○予算・決算について、学校ホームページで公表することにより、誰にでも見える化を図りました。 ○限られた予算の範囲内でできる限りの教育環境整備を行いまいに努めた。多岐にわたる施設面で積み残しが出ている。 ○事務職員向けに情報管理の徹底について研修を実施した。	B
	保護者・地域等との連携協力	○PTA活動の充実を図り、保護者と教育目標を共有し、組織的・継続的な連携を一層深めていきます。	年度当初において、PTAと学校組織が連携したうえで円滑にPTA活動が行えるよう従来までのやり方を見直すところからスタートした。バザーでは制服リユースの呼びかけで集まった制服の売り上げの寄付により生徒昇降ロッカーを購入することができ、教育環境の向上に寄与した。	B
	危機管理	○安全・安心な学校づくりを最優先として全教職員で取り組みます。 ○大規模地震に対応した避難訓練を通じ、生徒の防災・減災意識を高める指導を推進します。	教職員による学校評価では「危機管理」の項目については80%以上が肯定的な評価であった。しかし生徒による評価では校内の避難経路について否定的評価が45%もあった。8月に、コロナ以降久しぶりに全校一斉の避難訓練を行うことができたことは収穫であったが、折に触れて防災意識の啓発をはかることが必要であると感じた。	B
	学校に関する情報公開	○学校説明会や、金高OPEN DAY、文化祭などの情報について学校ホームページに随時掲載し、新しい情報を発信するとともに、ポスター、パンフレットの見直し等の工夫を図ります。	ポスターやパンフレットは生徒の生き生きと活動している姿が伝わる最新の写真に差し替え、コロナ禍で止まっていた公立東や私立合同学校説明会に使用するチラシを作成し、中学3年生と保護者にPRすることができた。また、ホームページで説明会や学校行事など適切な時期に情報を公開してきたが、説明会後のアンケートでホームページが見づらいとの意見があり、今後改善していなければならない。	B
	いじめへの対応	○組織的な情報共有・対応ができるようにします。 ○日頃から保護者とのコミュニケーションを図るとともに、関係機関への協力・連携によりチームとしてアプローチできるようにします。 ○「いじめはいじめでも起こらう」とを念頭に置き、「いじめ防止基本方針」を十分に理解し、生徒理解に努め、いじめの早期発見と解決に取り組む。	いじめ防止対策委員会を月一回の例会として行い、必要に応じて関係機関の出席をお願いしつつ、SGやSSWと連携して組織的な対応ができた。また、期明けの打ち合わせや学年会を通して、学年組織としてアセスメント(生徒)に向き合い情報を共有できた。生徒による評価の項目5について、86%が肯定的な回答であったが、これを100%に近づける努力を続けなければならないと感じる。	B

自己評価を記入、総括はA十分達成、B概ね達成、C努力必要、D改善必要で選択してください。

取組分野	令和 6 年度		評価
	取組目標	自己評価	
重点取組項目	「総合的な探究の時間」の取組の推進		
	魅力ある高校教育の推進		
	グローバル教育・サイエンス教育の推進		
人材育成の取組目標			
中期学校経営方針における13の取組分野	教育目標等の設定・実施		
	組織運営(働き方改革)教職員研修		
	教育課程		
	教科指導		
	特別活動部活動		
	生徒指導教育相談(特別支援)		
	キャリア教育進路指導		
	保健指導環境美化		
	学校総務施設・設備情報の管理		
	保護者・地域等との連携協力		
	危機管理		
	学校に関する情報公開		
	いじめへの対応		

取組分野	令和 7 年度		評価
	取組目標	自己評価	
重点取組項目	「総合的な探究の時間」の取組の推進		
	魅力ある高校教育の推進		
	グローバル教育・サイエンス教育の推進		
人材育成の取組目標			
中期学校経営方針における13の取組分野	教育目標等の設定・実施		
	組織運営(働き方改革)教職員研修		
	教育課程		
	教科指導		
	特別活動部活動		
	生徒指導教育相談(特別支援)		
	キャリア教育進路指導		
	保健指導環境美化		
	学校総務施設・設備情報の管理		
	保護者・地域等との連携協力		
	危機管理		
	学校に関する情報公開		
	いじめへの対応		

学校関係者評価書提案  
学校関係者評価書提案に対する考え  
中期目標振り返り

学校関係者評価書提案  
学校関係者評価書提案に対する考え  
中期取組目標振り返り

学校関係者評価書提案  
学校関係者評価書提案に対する考え  
中期取組目標振り返り